

会 告 (II)

第 2 回 熔 接 シ ン ポ ジ ュ ー ム

日本学術会議熔接研究連絡委員会は、第2回シンポジウムを開催するに当たり、「熔接利用によるわが国工業の生産性向上・増進・改良」の問題を取りあげ下記のように開催いたします。多数御来会を歓迎いたします。

日 時 昭和 32 年 3 月 18 日 (月) 9 時 30 分～17 時

会 場 東京都立工業奨励館講堂 (港区芝海岸通り)

国電 浜松町下車 (徒歩 7 分)

都電 大門停留所下車 (徒歩 10 分)

聴講およびテキスト無料

主 催 日本学術会議熔接研究連絡委員会

プ ロ グ ラ ム

- |     |             |                      |         |         |
|-----|-------------|----------------------|---------|---------|
| 1.  | 9・30～9・40   | 開 会 の 辞              | 大阪大学教授  | 岡 田 実   |
| 2.  | 9・40～10・10  | 建築構造における熔接の利用について    | 早稲田大学教授 | 鶴 田 明   |
| 3.  | 10・10～10・40 | 鋼橋熔接化の傾向とその生産性向上について | 横河橋梁製作所 | 田 中 五 郎 |
| 4.  | 10・40～11・10 | 熔接による造船の生産性向上について    | 東京大学教授  | 木 原 博   |
| 5.  | 11・10～11・40 | 球形タンクの熔接について         | 石川島重工業  | 中 村 素   |
|     | 11・40～12・40 | 昼 食                  |         |         |
| 6.  | 12・40～13・10 | 1956 年国際熔接学会年次大会報告   | 東京大学教授  | 吉 識 雅 夫 |
| 7.  | 13・10～13・40 | チタニウムの熔接と実際          | 新三菱重工業  | 榎 易     |
| 8.  | 13・40～14・10 | 生産性の立場からみた自動熔接の形態    | 大阪変圧器   | 清 原 道 也 |
| 9.  | 14・10～14・40 | 抵抗熔接による生産性向上         | 電元社製作所  | 中 村 孝   |
| 10. | 14・40～15・10 | 大型熔接容器製造用熔接治具としての水槽  | 大阪大学教授  | 大 西 巖   |
| 11. | 15・10～15・20 | 閉 会 の 辞              | 東京大学教授  | 仲 威 雄   |
|     | 15・30～17・00 | 映 画                  |         |         |

「新しい鉄」八幡製鉄 K.K 提供

「製 鉄」日本鋼管 K.K 提供

「造 船」日本鋼管 K.K 提供